

2023年度 学校関係者評価

設置者確認 2024年 3月 28日 理事長 角田 修一 印



校務分掌	重点目標	具体的取り組み	A～C	自己評価	A～C	学校関係者評価
庶務課	一般的な業務内容の明文化と慣例の見直し	担当者しかわからない状態をなくすため、多くの職員に関わってもらい担当者不在でも対応できるような体制をつくる。新規職員など初めて取り組む人にとってもわかりやすい形にしたり、マニュアル化できるものはして業務内容を整える。常に新しい視点でより良く出来るよう工夫していきたい。	B	まだまだ担当者と一緒に確認しながら進めていく段階であるが、担当者以外の職員に引き継ぎができてきている業務も増え、少しずつではあるが改善されている。新しい職員も経験を積み上げてきて主体的かつスムーズに準備に取り組むことができるようになってきたため大きな問題もなかった。保護者会役員会の担当者の入れ替えもあったが新しい関わりや視点が増えてよかった。その都度関係する職員と確認しながら連携できたのではないかと。事務室での業務については様々な状況もあり難しい面もあるが少しずつ共有できることが増えてきている。	B	少しずつ生徒対応もありながらもよく進められている。もしもの時などに対応できる様に複数人でわかっているなどできるとよい。Aでもよいのではないかと。ポイントの目標を設定して、それができればA評価にする形でも良いだろう。多くの項目があると、できていないものがあるとAをつけにくくなるだろう。
教務課	新しい授業形態や学習環境及び学習教材の工夫 学びの時間の確保 基礎学力の定着 魅力ある授業の構築	ipadやリモコン、プロジェクターなど、授業に利用できる機材などの導入により幅広く授業形態を考え、より内容の深い授業の展開を目指す。自宅学習の推奨や課題などの提示を含め生徒それぞれの学びへの向かい方を示す。その際、回収のチェックや目標の設定など工夫し、提示して終わりにならないよう考える。社会情勢を鑑みながら、行事などの体験的学習機会を再開していきたい。併せて学校祭もできる限り縮小せずに行っていきたい。特別タイムなどで他学年とも連携し、三年間を通じそれぞれの学年の段階を踏まえた基礎学力の向上を図りたい。それぞれの授業を見学し合い、意見を伝え合ったり、指導を仰いだりできる機会を設け、より魅力的な授業が展開できるよう心がける。	A	今年度はコピー機を新しくしたり、新しいプロジェクターを購入したりした。コピー機については紙詰まりが減り教材準備の際大変便利になった。また学年集会や各種行事等でのプレゼンテーションをする機会が増え、活用についても夏期研修期間などでそれぞれ課題を行い上達することができた。アンケートでも習熟度別クラス編成による学びやすさや、それぞれの授業の持つ魅力などを確認できた。課題や自宅学習については定着がどのくらい出来たか難しい所がある。簿記については補習の代わりに模擬試験問題集を配布などして対応した。コロナ禍の影響も少しずつなくなり、学校祭でも飲食物の販売などを再開した。また人数制限も解除したため多くの方の来場が見られ、飲食ブースも大きな賑わいを見た。各所の販売に携わった生徒たちからも制作から販売まで責任持って行うことができ自信がついたとの声などを聞くことが出来た。特別タイムについては学年通した打ち合わせや方向性を定めることが出来なかった。生徒によっては文字の練習などが役に立ったという意見や、単調だったという意見もある。落ち着いた時間を過ごすことができた等肯定的な意見も多かった。授業見学など積極的に行う余裕はあまりなかったが、様々な学習段階の生徒がいる中で楽しんで授業を受けられた生徒が多かったように思う。ただ教育課程として達したい目標が生徒によっては難しすぎることもあったかもしれない。習熟度編成をしてもある一定の水準は維持していきたい。	A	学校祭の体験はいろいろな工夫がされていて良いものになっている。検定前の補習は卒業生をはじめ、誰かアルバイトをやっても生徒のモチベーションに繋がらるだろう。生徒どうして教え合うこともどうか。わかっていないと教えることはできない。相乗効果があるのではないかと。アンケートを読むと肯定的な言葉が多くて良い学校だなと思う。先生方の努力、尽力を感じる。
総務課	変更届、資産の登記、理事長登記など滞りなく行う 理事会・評議員会の開催通知などの早めの連絡	70周年を迎えるにあたって施設設備の変更、授業料などの学則の変更について滞りなく手続きを行っていききたい。 今年度任期満了となり一部の理事・監事・評議員が変更になった。新しく加わって頂いた方たちの協力が得やすいよう連絡など遅れが出ないよう気を配ってやっていきたい。学校内部理事・評議員についても連絡を行き届かせたい。	A	授業料等学則変更も含め、変更届、資産の登記など滞りなく行っている。令和4年に私立学校関係事務の手引きの第三次改訂版が出たことによりほとんどの書式が変更された。新書式による手続きを行なっている。理事会・評議員会の開催通知については3月中旬に新規役員と評議員の方にも年間予定をお伝えして、開催1ヶ月以上前に開催通知で詳細をお伝えしている。学校内理事・評議員にも同じ書式にて通知を行った。今年度は任期途中での監事の変更もあるので理事会・評議員会後すみやかに変更届を出していきたい。今年度から学校会計を会計事務所に依頼していただいている。またハラスメント対応窓口も設置した。	A	特に申し上げることもなくA評価である。ガバナンスがかなり厳しくなっている。執行部や理事の責任性や評議員は正しく評価できる人が必要になってきている。迅速な対応を求められている。カウンセラーについて、公立では市で担当者が決められているが常駐はない。先進県は常勤職員もいる。スクールロイヤーも必要になってきている。訴えられたらどうするか。いざという時に頼れる関係を作っておく。
入試課	中学校のみでなく、適応指導教室や医療機関などとの繋がりをつくっていく 学校説明会で伝えている内容と実状の見直し 70周年を打ち出したり、学校の取り組みや考え方を多くの人に知ってもらったりするために、広報活動を工夫する	在校生の利用していた適応指導教室や、利用している医療機関へ連絡をとりたり足を運んだりし、関係を作っていく。説明会で紹介している内容と実状とのギャップがないよう、全職員で真摯に向き合っていきたい。学校説明会など、いろんな職員が経験し、本校の特色や大事にしているものを改めて意識していく。 中学生やその保護者のみでなく、在校生の保護者に向けての働きかけ(講話や交流会など)をし、保護者の方発信でも広げていただけるよう働きかける。また、教育関係者以外の外部の方との繋がりを広げていきたい。	B	夏休み期間を利用して、各教育機関訪問を行うと共に、市内のスーパーや近隣の図書館にチラシを配付するなど広報活動を行った。多くの方へ知ってもらった機会になったと思うが、入学者数に結びついていない点を見ると、今後更に広報活動を工夫する必要があると感じる。特に今年度以降、通信制高校への志願者が増えているとの情報をよく聞くため、中学2年生以下の生徒や保護者へも早めに働きかけるなど対策を考えたい。また、病院への連絡や訪問ができていないため、引き続き連絡をとって実現させたい。 学校説明会は今年度も入試課中心で行ったが、小規模の説明会や個別相談会、外部の合同相談会では入試課以外の職員にも協力していただくことができた。 今年度は70周年ということもあり、企画を通して保護者間で交流できる機会があった。在校生保護者や卒業生・卒業生保護者の交流だけでなく、中学生の保護者が参加できるような場を入試課で設けても良かったのではと感じた。	B	通信制との関わりもあるが、こういった学校は残っていてほしい。目で見たり、体感したりできるところを増やせると良い。ふじのくにとがどのような学校なのか実態がわからない。来年度以降どのような動きになるのか。自信を持ってPRしていく。卒業生の話を聞くとかかったという話をする。小規模だからこそその強みを活かし、もっともっと堂々と説明をしていってもよい。
進路課	進路に関する情報をわかりやすく適切に提供する 関係機関との協力・連携に力を入れる	学校案内やパンフレットなど進路関係の情報が、過去のものや最近の志望がないものも含めて大量に存在するため、不要なものを積極的に処分し、生徒が必要な情報にたどり着きやすいように整理する。 また手帳を持っている生徒など、本校のみで十分な対応をすることが難しいケースについては、1、2年生のうちから就職支援などについて理解してもらえるように保護者対象の説明会などを検討する。	B	多目的ホールの進路コーナーの過去資料を半分以上処分し、求人情報もあらためて業種別にファイルを用意して整理し直すことで、生徒が必要な情報にアクセスしやすい環境になった。大学、専門学校のパンフレット・募集要項については、実際には生徒がインターネット上で入手するケースも多く、紙媒体についてはネット上で公開していない学校の資料を多めに用意するなどの調整をすれば良かった。進路状況については進学者が7割、うち大学進学も六割を超え、コロナ前の状態に近づいてきている。 進路説明会については、11月と2月の2回、4年振りに保護者にも参加してもらうことができた。特に2月は、告知が遅れてしまったにも関わらず、30人近くの保護者が参加しており、関心の高さがうかがえた。次年度は告知を早めに行い一層の参加を促したい。また年度当初検討していた、手帳を持っている生徒の保護者対象説明会は実施しなかった。こちらについては個別に対応する方が良いのではないかと意見がでているため、再度検討しなおしたい。	A	三年間の関わりがあった先生からの言葉は大きい。一緒になって考えていければ、進路に向けての個別説明会や相談会を開いてもよいのではないかと。カウンセラーやソーシャルワーカーは進路を考えるうえでも大切な役割を持つ。そのために充実させていく必要がある。手帳の種類や同じものでも一人ひとりあわれは全く違う。個別でじっくりその子を考える。手帳を持っているという前提ではなく、その子がたまたま手帳を持っているという見方。学校としているいろいろなものを活用していく。専門は専門に任せてもよいのではないかと。
保健課	生徒の安心して過ごせる環境を整備し、心と身体の健康を守る	安心して過ごせる環境を整える。季節に応じた情報を発信し健康づくりに役立ててもらおう。生徒の個々の事情を担任と情報を共有し、安心して学校生活を送れるよう配慮する。また心のケアも大切にしたい。	B	生徒については大きな事故や怪我などはなくよかった。身体計測や内科検診の情報を担任と共有し必要に応じて各家庭に連絡できた。校医や結核予防会(レントゲン撮影)への連絡は滞りなくできた。体調不良や気持ちの面で休む生徒に安心してもらうため、状況に応じ休む場所を変えたり室温や部屋の明るさなどの配慮をした。またその時の様子も担任に報告することもできた。事務室前の黒板で健康についての情報を発信できた。常備している市販薬などの消費期限が切れているものが多かったが全部を確認することができなかった。年度内に総点検をしたい。	B	薬の管理は忘れない様に、スケジュールを組んで総点検をする。体内に入るものだから、細心の注意をはらい管理する。
生活環境課	70周年記念事業に向けて校内環境を整える	校内整備計画を立て、数年かけて長期的な計画で整備を進める。校舎内と、屋外の整備したい箇所をまとめ、70周年記念事業に向けて、優先順位を付けて着手していく。特に、テニスコート内と南庭は自遊の森計画に直接関わる場所になるため、できる限り見直しを持って今年度内に整備する。記念事業の一環として、保護者対象講話や交流会、記念式典も計画しているため、多くの方を気持ち良く迎えていけるよう、校舎内も常に整理整頓し、清潔感のある明るくあたたかみのある環境になるよう整える。写真や生徒作品の展示をするなど、掲示物にも力を入れたい。	A	年度始めにたてた校内整備計画を年度途中で何度か見直し、こまめに職員に呼びかけ、実施出来るところから随時整備を進めることができた。校内のベンチやテーブルの塗装や、各場所の物の整理、小教室を『ひまわりRoom』と名付け、気持ち良く面談や打ち合わせができる場所として生徒と共に学校祭で整備するなど、校内環境をより良いものにしていくことができた。東棟一階の廊下も昨年度から整備してきたことで、随分明るい印象の場所になり、生徒たちが昼休みや休み時間に居場所として利用している様子を多く見かけるようになった。ひまわりRoomはテレビも備え付けで設置したため、面談や打ち合わせの他にも学校説明で映像を流して、個別見学時に対応できたりと有効に活用できていた。70周年の様々な活動において、多くの来場者の方を気持ち良く迎えることができたように思う。自遊の森の造成工事が始まり、南庭も大きく様変わりしてきており、継続して整備を進めていきたいと考えている。旧テニスコートの壁面の塗装を3年生のボランティアと職員で2月に実施する。自遊の森造成にあたり、防災倉庫をバスケットコート側に移動した。移動の際には多くの生徒が協力してくれありがたかった。また、雨漏りがひどかった古いプレハブ倉庫を新しいものに変えたことで、倉庫を大幅に見直し、物の整理をし以前と比較して管理がしやすくなった。	A	一つのことに対して結集している。大きいことは難しいだろうから計画的に動めていく。週に1日や月に1日などカウンセリングができる日をあらかじめ設定しておくとも良い。もともと日程がわかっていると相談しやすいだろう。何かあったからではなく、日常的に話ができると、カウンセラーも嬉しい。
管理課	職員・生徒の意識を高め日頃から生活環境の維持・改善に目を向ける	生活環境課と共同して校内環境を整えるとともに、修繕が必要な箇所について課として検討する。 昨年度は3ヶ月点検を実施したが今年度は4ヶ月点検とし、8月、12月、3月と定期的に修繕できるよう記録していきたい。 工事が必要になりそうな箇所については早めに総務課や経理と相談し計画を立てていきたい。	B	点検については定期的に行うことが出来た。校内整備の優先順位を考えられることはしてきたが、対応が遅れてしまうこともある。また夏休み前、年末、年度末は他の仕事も立て込んでいく傾向があるため、出来る職員だけでもできる範囲で行うことができるとよかった。 生徒机や椅子などで破損が目立つものについては前年度も廃棄していたが、今年度も再度見直していきたい。また必要に応じて購入することも検討したいが、パテ埋め等で対応できるものは修繕してもどうかとも思う。 今年度はテニスコートを自遊の森とする事業を行っているため防災倉庫等バスケットコートに移築した。バスケットコートの破損についても修繕方法を検討したい。	B	生徒の安全を考え、頑張っている様子が伝わる。机は天板のみを交換できるものもある。年単位で補修するところは計画を立てていく。金銭面、時間面など一度には難しい。